



草千里

北海道中標津農業高等学校 P T A ・ 教育振興会

第33号

令和5年3月1日

〒088-2682
標津郡中標津町計根別南2条西1丁目1-1
Tel 0153-78-2053
Fax 0153-78-2465
URL: <http://www.nakashibetsu.jp/nagri/index.htm>
E-mail: nagri-gyomu@ed.nakashibetsu.jp



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業、心からお祝い申し上げます。また、入学より本校の教育活動に、温かいご支援とご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。併せて、教育振興会の皆様をはじめ、地域の皆様、関係機関の皆様にも多大なご支援をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

私の目を覚ましてくれた『置かれた場所で咲きなさい』の著者である、前ノ一

「愛と思いやりを
伝えるられる大人に
なってほしい」



校長 渡辺 晃史

「七転八起 挑戦あるのみ」



教育振興会長 高橋 勝義

二〇二三年（令和五年）を迎え、各位には本校活動にあたり、ご理解ご協力のうえ、ご支援いただいている事に感謝申し上げます。

さて新型コロナウイルスによる社会活動、経済活動の大きな変化とともに、人の行動制限、自粛等に慣れてきてきている自分に気がつく今日です。しかしよう

やく発生率、重症化含めて落ち着き、国も少しずつ制限を解消しつつあり、二類から五類へ引き下げられ、マスク着用も個人判断となる事により、コロナ発生以前のように戻りつつあります。

いま、学び舎を卒業し一つ上のステージへ向かう時、進学、就職等を決断し、三年間通った学校、仲間と離れる三年生はきつと次にある期待、可能性へ積極的に挑戦して下さい。マスクを付けた三年間で素顔での生活へ大きく変わりますが、笑顔在前面に出し、人生を楽しみながらの努力を大いに楽しみにしています。

特徴のある中標津農業高校で、勉強、農業クラブ活動、スポーツ等、共に汗をかいた日々はこれからの人生に大きな自信、勇気となり、一生忘れない絆です。時にはつまづく事もあるでしょう。その時は遠慮なく仲間、家族、地域のみなさんに相談する等して、自信を取り戻して下さい。

この『置かれた場所で咲きなさい』の中に、次のような一節があります。

『二歳ぐらゐの子どもを連れだす母親が、水道工事をして居る人たちのそばを通りながら語つて聞かせて居る。『おじさんたちが、こういう働きが飲めるのだ。さう陰で、おじさんのお水が飲めるのだ。ありがたう、おじさん、おじさん、おじさん』』

同じところを、これまた幼い子連れ別の母親が通りかかります。子どもに向かつていいました。「あなたも勉強しないと、こういうお仕事をしなさいといけなくなるよ」

価値観はこのようにして、親から子どもに伝えられることがあるのです。最初

トルダム清心学園理事長で旭川市出身の渡辺和子さん(故人)は、「花にとつて一番大切なのは、どこで咲くかではなく、または他の花と自分を比べて見劣りするか、見栄えがするか、そんなことではなくて、咲かせるという事です。自分にしたか咲かせられない花を、置いてもらつた所で懸命に咲かせるといふことです。とおっしゃいました。誰もが本校の生徒たちには、一生、幸せに生きて欲しいと願っています。しかし、それ以上に願っていることは、どんな困難の中でも咲く力(困難を乗り越える力)を備え、逞しく生きて欲しいということです。

積極的に一歩前へ、自分を表現していただければ必ず味方ができます。力にしてください！

社会情勢はコロナ回復、ロシアのウクライナ侵攻による世界的にエネルギー、食糧不足等の大きな課題があり、日本は特に資源のない国であり、インフレ、物価高、円安により苦勞が心配されます。どうか若いみなさんに頑張ってもらいたい。願っております。

最後に今日まで見守つて下さいましたご両親、地域のみなさんありがとうございました。また校長はじめ、教職員のみなさん、大きな成果へご指導いただきました事に感謝申し上げます。

本校も七〇年を刻み、百年へ向け共に今後進みます。また、新一年生を迎え歴史に新たな記録を重ねていきます。今後とも教育振興会は学校のサポーターとして支えて参ります。より一層のご理解ご協力、ご支援をお願い申し上げます。卒業生への励ましとさせていただきます。

親、母親、大人になつて下さい。卒業生の皆さん、保護者の皆様、卒業おめでとうございます。

今年85歳になる私の母は、決して学歴のある人ではありませんが、人として大切にしなければならぬことを、母の背中できちんと教えてくれました。思いおこすと、片親で育ててくれた私を、厳しく、そして愛をもつて育ててくれました。しながら私は高校生のとき、思い通りに進路を築けないことを、母親や貧困の責任に転化した時期もありました。置かれた場所(環境)に不満を持ち、他人の出方で幸せになつたり不幸になつたり。どんなと、環境の奴隷でしかありません。どんなと置かれるためには「私(自分)が変わる」ことよつてのみ可能となりま

の母親は、人間はお互い同士、支え合つて生きて居ること、労働への感謝の念を子どもに心で植えつけたのに対し、二番目の母親は、職業に対する偏見と、人間を学歴などで差別する価値観を植えつけたのではないのでしょうか。価値観は言葉以上に、実行している人の姿によつて伝えられます。

令和5年2月16日現在

令和4年度 進路一覽

令和5年2月16日現在

進 学	
酪農学園大学	札幌医療秘書福祉専門学校
札幌心療福祉専門学校	札幌どうぶつ専門学校
札幌ビューティーアート専門学校	札幌マンガ・アニメ&声優専門学校
経専調理製菓専門学校	経専北海道保育専門学校
北海道理容美容専門学校	上田安子服飾専門学校
北海道農業協同組合学校	ヒューマンアカデミー札幌校
代々木アニメーション学院札幌校	

就 職	
株式会社 犬飼工務店	株式会社 日 翔
社会福祉法人中標津朋友会	高部電気株式会社
なかしべつ菌床栽培協同組合	中標津農業協同組合
ヤンマーアグリジャパン株式会社 北海道支社	株式会社 栗栖牧場
株式会社西春別自動車工業	株式会社 ENEOS ウイング
二幸産業 株式会社	山崎製パン株式会社
北海道警察官	陸上自衛隊一般曹候補生

3年間を振り返って

生産技術科3年 椎田 恋羽

3年前の入学式、私たちは中標津農業高等学校に入学してきました。私たちの学年は宿泊研修もなく、1年生の頃はあまりみんなで交流を深められませんでした。2年生の見学旅行を終えてから、少しクラスの雰囲気が柔らかくなり、絆が深まったように感じました。3年生になると、進路活動が本格的に始まり、あの3年A組の教室が少しピリついた空気だったのを覚えています。そんな私たちを支えてくださった先生方には感謝しかありません。ありがとうございます。一人一人の個性が強く、いつもいつもまとまらない3年A組でしたが、これからも自分らしさを忘れず頑張っていきたいと思います。私たちの担任でいてくれた立花先生、菊地先生、副担任の加瀬先生、中山先生。このクラスで過ごすことができて、とても楽しかったです。また、私たちを支え見守ってくれた先生方、地域の皆様。3年間本当にありがとうございました。



生産技術科

卒業生に贈る言葉

生産技術科3年 担任 立花 千恵

3年A組の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、これから一人ひとり違う進路に旅立っていきます。自分が置かれた環境で、精一杯自分らしく生きていってほしいと思います。ただ、とても困ったり、悩んだり、辛かった時には、誰かに「助けてほしい」と言える人になつてください。そのことができる人を、自立した人と言うのではないでしょう。そして、自分もそのような誰かに手を差し伸べることができる人間でいてほしいと願っています。先生はこれからもずっと君たちのことを応援しています。1年間、ありがとうございます！

保護者の皆様、3学年からの担任で頼りないところもあったと思います。共に歩んでくださり、本当にありがとうございました。

3年間を振り返って

3年間を振り返って

食品ビジネス科3年 小松 春斗

私たちのクラスは3年間を通して、資格取得に力を入れてきました。自分が取れそうな資格を積極的に受験し、進路活動へつなげることができました。資格取得の大切さについて教えてくれた太田先生、本当にありがとうございます。私たちのクラスは学校行事をとっても楽しみながら取り組むことができました。その中には仲間と意見がすれ違い、雰囲気が悪くなることも少なからずありました。ですが、それを乗り越えたからこそ成長できたところもあります。上手いかないことが多かった高校3年間でしたが、クラスみんなのおかげで楽しい思い出がたくさん作ることができました。3年間私たちを支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。



食品ビジネス科

卒業生に贈る言葉

食品ビジネス科3年 担任 太田 武

3年B組の皆さん、卒業おめでとうございます。3年間を振り返ると、新型コロナウイルスによって何事にも制限があり、思うようにいかない高校生活でした。3年B組について、入学時は本当に静かで、私自身もとても不安なスタートだったのを今でも覚えていてます。時間が経つにつれて、話し声が聞こえ、いい笑顔も見せるようになり、担任としてうれしく思っていました。

4月からは、社会人や学生として、それぞれの道を歩んでいきます。これから辛いことなどあると思いますが、高校生活でたくさんことを乗り越えてきたみなさんなら大丈夫です。様々な経験を糧として、周りの人への感謝を忘れずに生活してほしいと思います。

最後に、保護者の皆様を支えられて無事に卒業を迎えることができました。3年間見守っていただき本当にありがとうございました。

見学旅行を終えて

生産技術科2年 手塚 洸介

初めての電車や飛行機、初めての道外は、どこを見ても新鮮でした。自主研修で訪れた道頓堀ではグリコの看板やトルコアイスをにぎやかに販売するおじさん、北海道では見ることの無い光景を目にしました。コロナ禍なので、みんなで部屋に集結することはできませんでしたが、相部屋の友人の足が臭い事も普段の生活ではなかなか気付かず、見学旅行の醍醐味を実感しました。また、私は食事の挨拶を担当し、みんなの前で挨拶するのは緊張しましたが、人前で話す機会がめったにないと思うので、良い経験をしたと思います。

総括して「見学旅行、楽しかったな。」

生産技術科2年 担任 山下 大智

12月11日（日）～14日（水）の4日間、関西方面（京都、大阪、兵庫）にて見学旅行を行いました。コロナ禍ではありましたが、当初の予定通り実施できたことは、学校や町内の感染症対策の賜物と考えています。京都では、日本の古都から風情を体感し、訪れた清水寺では「今年の漢字」を直に見ることができました。また、防災学習として、人と防災未来センターを訪れ、震災の様子や被災者の声から、災害に向けて何ができるのか、どう行動すべきなのか考えました。

地域の担い手として学ぶ残り1年間で、自主自立の精神を育み、進路実現を目指します。

食品ビジネス科2年 鶴田 瑞樹

高校生活1番のイベントである見学旅行では、京都・大阪に行きました。北海道とは違う文化や景色を見ることができました。

京都では、清水寺や伏見稲荷大社に行ったり、生八つ橋作りも体験したりしました。普段は体験できないようなことも体験できたのでとても勉強になりました。

大阪では自主研修をしました。友達と行きたいお店に行ったり、ほしいものや食べたいものを買ったりもしました。

高校生活最初で最後の見学旅行は、色々なことを学び、たくさんの思い出もできて楽しかったです。

食品ビジネス科2年 担任 白幡 十夢良

コロナ禍の見学旅行ということで、感染症対策など保護者の方々には多くのご支援、ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

さて、見学旅行を通して生徒の皆さんは何を得ることができましたか？ 時間を守ることの大切さ、仲間と協力すること、北海道とは異なる文化に触れる、など挙げればきりが無いと思います。「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、今回の見学旅行で皆さんが実際に見てきたものや感じたことを大切に、日本の文化の多様さ、さらには皆さんの住む北海道や道東の良さについても再発見してほしいと思います。





体育大会優勝チームコメント

1A代表：中 浦 史 也

今年度の体育大会は、総合優勝という1年生から信じられないほどの快挙を成し遂げることができました。今回このような結果を残すことができたのは、各々が自信のある種目に出場し、全力を出して取り組むことができたからだと思っています。また、自分が出場していない種目があってもしっかりと応援をして団結したことも要因だと思います。しかし、今回優勝することができたものの、怪我をする人が出てしまいました。次の体育大会では怪我なく、そして2連覇を目指して頑張ります。



体育大会実行委員長 3年A組 和田山 翔

今年度の体育大会も昨年同様、330アリーナで開催されました。今年度の体育大会は、各クラスの雰囲気素晴らしく、感染症対策をしっかりと講じながら選手に応援している姿が印象的でした。今回の大会ではクラスの良さやチームの絆を感じました。特に最後のリレーでは、全員が盛り上がっていて、本当に素晴らしい体育大会ができたなと思います。ご協力ありがとうございました。

— 薬物乱用防止講座を実施しました —

薬物乱用防止・防犯講演会を受講して

生活委員会委員長 白 田 祐 晟

今回は、薬物乱用防止・防犯講演会を受講して、改めて薬物は身近な存在で、危険があることが分かりました。そして、もし、万が一他の人が誤って薬物を乱用してしまっても、更生のために手を差し伸べてくれる施設があることも学びました。しかし、可能ならば少しでも事故を未然に防ぐことが大切であり、自分の友人や家族を守るため、今回教わったことを活かし、更に薬物や、防犯の知識を増やし、日々意識して生活していきたいと思っています。



依存症に対処するために

- ※病院（精神科など）を受診する。
- ※依存症の専門施設（ダルクなど）に相談する。
- ※地域の相談窓口（相談室）に相談する。
- ※自助グループに参加する。





生産技術科1年 井村智尋

この度、農業クラブ書記に就任しました生産技術科1年井村智尋です。まず、私にこのような機会を下さいました先生方、投票していただいた在校生のみなさん、本当にありがとうございました。昨年12月に行われた校内実績発表大会では、記録用紙の作成や分野Ⅱ類の司会など、やりがいある経験をさせていただきました。この貴重な経験を次年度につなげられるよう、今後も日々努力していきます。生徒の意見を多く取り入れより良い学校づくりを行いたいと考えておりますので、ご協力お願いします。



生産技術科1年 柴田あかり

熱志会会計監査に当選しました柴田あかりです。私が熱志会役員に立候補したのは、様々な行事の中で活躍する熱志会の先輩に強い憧れを感じたからです。いざ役員になってみると、想像以上に学校を陰ながら支える役目が多く、大変ではありますが、やりがいを感じました。なので、私の欠点である消極的なところを変え、私も憧れの先輩方に近づけるよう努力しようと決意しました。

まだまだ不慣れで色々ご協力をお願いすることもあります。学校を支えていけるよう責任をもってがんばります。

熱志会役員よりご挨拶



食品ビジネス科1年 佐藤天

この度、熱志会会計に当選しました佐藤天です。わたしは熱志会役員として生徒が地域とコミュニケーションをより密にとることができる学校にしたいと考えています。しかし、コミュニケーションが苦手な生徒も多いと思います。苦手な人でもコミュニケーションをとることができるような環境づくりを目指し頑張ります。これからよろしくお願いたします。



食品ビジネス科1年 蛭田あみり

この度、生徒会書記に当選しました食品ビジネス科1年の蛭田あみりです。ここ数年、新型コロナウイルスの影響で様々な場面で制限を強いられる日々が続いています。しかし、コロナに負けず、生徒全員が充実した学校生活を送ることができ、服装や挨拶など礼儀や規律の守れる学校にしていきたいです。

まだまだ始まったばかりでわからないことも多くありますが、中農をより良くできるよう熱志会役員として精一杯頑張りたいと思いますのでよろしくお願いたします。

令和4年度

第73回日本農業クラブ連盟全国大会

農業クラブ全国大会に

参加して

農業クラブ顧問 山下 大智

今年度は北陸3県（富山・石

川・福井）にて実施され、事例

発表および農業鑑定競技に出場

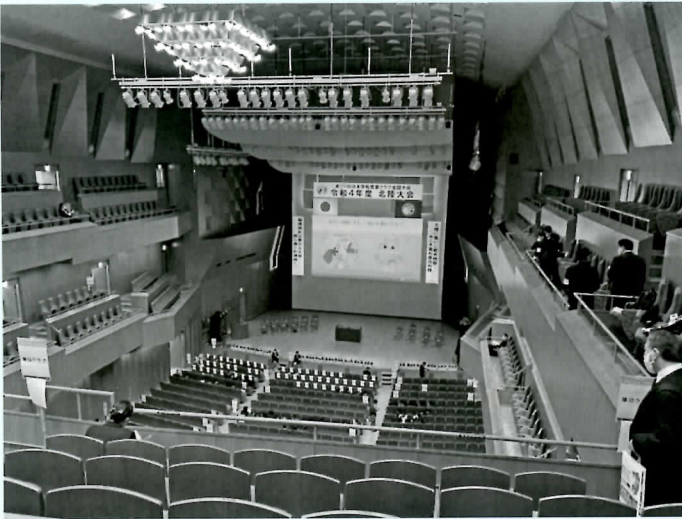
しました。事例発表では、本校

や道内の農業クラブ活動につい

て発表し、参加した高校のクラ

ブ員と情報交換しました。また、

農業鑑定競技には4名が出場し、



見事2名が入賞を果たしまし
た。今後も本校クラブ員の活躍
が期待されます。

全国大会（農業鑑定競技）

で優秀賞を受賞して

生産技術科1年 峰松 晴

全国大会の問題は、重箱の隅

をつつくような問題もありまし

たが、競技の特性上、学習すれ

ばするほど成績が良くなると分

かりました。調べたこと

や学習会での学びが生か

されていることが分かり

自信になりました。来年

の目標は、全国で最優秀

賞を獲得することです。

食品ビジネス科2年

蜷川沙也夏

福井県で食べたソー

カツ丼がおいしかったで

す。大会では優秀賞を獲

得することができまし

た。来年は少しでも多く

問題を解き、今年以上の

成績を残したいです。校

内大会から全道大会まで

35点以上、全国大会でも35点を
目標に学習します。

全国大会事例発表に

参加して

生産技術科3年 椎田 恋羽

2年連続出場を果たし、良い

経験になりました。全国の農業

高校生と交流する機会はなかな

かないので、様々なクラブ員と

交流する機会は、新たな発見が

ありました。また、宿泊を通し

て、普段以上の時間をともにし

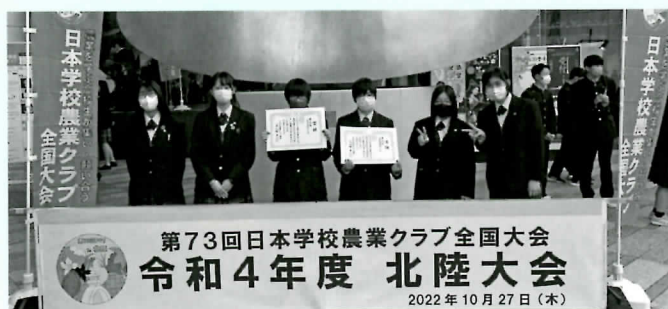
た後輩とも仲を深めることがで

き嬉しい思い出ができました。

全国大会へ行けたのもご指導い

ただいた先生方のおかげです。

ありがとうございました。



令和4年度 第71回東北北海道 学校農業クラブ連盟実績発表大会

分野Ⅰ類 最優秀賞 植物活用研究班

生産技術科3年 栗栖 ちか
私たち植物活用研究班（野菜班）は、「地場産野菜を地域の食卓へ」をテーマに光合成細菌という微生物を活用して高品質なハクサイの生産を行う研究成果を発表しました。今回は農業利用に向けて光合成細菌をビーズ状に固形化し、利用しやすいように改善。地域のJAや小売店と連携して地場産野菜の普及を行いました。冬休み中も発表練習を重ね、発表力を磨いてきました。東北北海道実績発表会では練習の成果を発揮し、優秀賞1席に入賞することができました。8月に実施される全道大会に向けても改善を重ね、力を発揮できるよう頑張ります。



分野Ⅱ類 優秀賞 肉加工研究班

食品ビジネス科3年 漆原 優
今回肉加工研究班では、エゾシカの“まるごと”活用をテーマに東北北海道実績発表大会で発表しました。今年度は製品・レシピ開発と副産物商品の開発という2つの柱を設定し、大学や企業、振興局など様々な関係機関に協力していただき、研究を進めてきました。
冬休み中も練習を重ね、1月に行われた東実発では分野Ⅱ類で優秀賞1席を受賞することができました。また、ICT機器を活用して他校の発表を見ることができ、プロジェクトの内容だけでなく発表方法やスライドの作り方に関しても自分たちに足りないものを知ることができたので、今回の反省を後輩に引き継ぎ、8月に行われる全道大会までにさらに発表力を向上させ、最優秀賞を中農に持ち帰れるよう頑張ります。



分野Ⅲ類 最優秀賞 マネージメント研究班

食品ビジネス科3年 石井 あみ
私たちマネージメント研究班は、計根別幼稚園や計根別学園の子ども達と一緒に活動した「計根別食育学校」の活動成果について発表しました。2020年から子ども達の学び方が変わったことを受け、昨年からの食育学校の学び方改革に挑戦。今回の東北北海道大会では、今年度行った改革内容について10分間の発表を行います。
今回出場する東北北海道大会は、私の高校生活3年間を締めくくる最後の農業クラブ大会です。「学校の代表として発表させてもらえる以上、レベルの高い発表をしなければ…」と冬休み中も研究班員で協力して発表練習に励んできました。本番でも練習の成果を出し切り、みなさんに良い報告ができるように頑張ります。

